

第1回理事会(臨時) 議事概要

1 開催日時 令和6年4月23日(火) 15時00分～16時30分

2 開催場所 Japan Sport Olympic Square 14階 岸清一メモリアルルーム(東京都・新宿区)
次の役員は、自宅や職場、出張先から Web 会議システム(インターネット回線を使用した音声と映像を伝達するシステム)により参加すると同時に適時的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認した。

北野貴裕	荒木絵里香	岩渕健輔
土肥美智子	原田雅彦	松田丈志
來田享子	渡邊守成	工藤陽子

3 出席者 理事総数 30名
出席理事 27名

副会長	三屋裕子	副会長	酒井邦彦
副会長	横井裕	専務理事	尾縣貢
常務理事	北野貴裕	常務理事	小谷実可子
常務理事	星香里		
理事	荒木絵里香	理事	伊東秀仁
理事	岩渕健輔	理事	遠藤利明
理事	岡本友章	理事	栗原美津枝
理事	杉山文野	理事	鈴木大地
理事	須藤実和	理事	田口亜希
理事	谷本歩実	理事	土肥美智子
理事	原田雅彦	理事	服部道子
理事	古谷利彦	理事	松田丈志
理事	水鳥寿思	理事	八木由里
理事	來田享子	理事	渡邊守成
監事総数	3名		
出席監事	3名		
監事	工藤陽子	監事	寺田昌弘
監事	塗師純子		

4 議事の経過の要領及びその結果

理事職務権限規程第4条「副会長は会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ理事会が定める順位に従い、その職務を代行する。」との規定に基づく決議により、三屋副会長が会長職の代行を務めること、及び、定款第29条第2項及び第3項「会長に事故あるとき、又は欠けたときは、会長があらかじめ指名した理事が理事会を招集し、議長を務める」との規定に基づき、三屋副会長が本理事会の議長を務めることを報告。会議冒頭、3月30日に遅塚研一名誉委員がご逝去されたことを報告し、哀悼の意を表し、黙祷したのち、審議に入った。

5 議案

(1) 国際総合競技大会関係について

1) FISU 冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ)TEAM JAPAN 団長

2) 第9回アジア冬季競技大会(2025/ハルビン)TEAM JAPAN 団長

・1月13日から23日までトリノ/イタリアにおいて開催される FISU 冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025/トリノ)の TEAM JAPAN 団長について、伊東秀仁選手強化本部副本部長を推薦する。

- ・2月7日から14日までハルビン／中国において開催される第9回アジア冬季競技大会(2025／ハルビン)のTEAM JAPAN 団長について、原田雅彦選手強化事業専門部会員を推薦する。
- ・11月21日から30日までバンコク・チョンブリ／タイにおいて開催される第6回アジアインドア・マーシャルアーツゲームズ(2024／バンコク・チョンブリ)について、現在、TEAM JAPAN 選手団は19競技の派遣を予定している。TEAM JAPAN 団長には、令和5年度第5回理事会で古谷利彦選手強化本部副本部長に決定している。

【決議内容】

- ・FISU 冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2025／トリノ)TEAM JAPAN 団長 伊東秀仁
- ・第9回アジア冬季競技大会(2025／ハルビン)TEAM JAPAN 団長 原田雅彦

(2)JOC の環境への取り組みについて

- ・令和5年度第8回理事会において、環境理念及び行動指針の進捗状況を説明したが、意見交換の時間を十分持てなかったことから、意見・コメントがあれば事務局に連絡するよう伝えた。会議後に数名の理事より、行動指針案にIOC、IF、NOC等との連携についての議論の必要性を追加してはどうかなどの意見があった。
- ・これを受けオリンピック・ムーブメント事業専門部会の環境保全等への取り組み強化タスクフォースにおいて協議し、行動指針に「IOC、他の国・地域のNOC等のオリンピック・ファミリーと連携し、実現に努める。」との一文を追加した。
- ・この変更に伴い、環境理念には「多角的な視点から環境保全活動に貢献する」との一文を追記した。
- ・環境理念は、「公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、オリンピック・ムーブメントの柱が「スポーツ・文化・環境」であることを踏まえ、スポーツの現場における環境保全やスポーツを通じた環境問題の啓発など多角的な視点で地球環境の保全に貢献し、50年後、100年後もスポーツができる環境を目指す。」とし、行動指針は、「1.スポーツを通じた気候行動枠組みの原則を遵守する。2.上記原則の遵守において、国内のNF等のスポーツ関連団体、アスリート、パートナー都市、パートナー企業等の全てのステークホルダーと協働し、実現に努める。3.上記原則の遵守において、IOC、他の国・地域のNOC等のオリンピック・ファミリーと連携し、実現に努める。」とする。
- ・行動計画は現在作成中であり、ドラフトができ次第ご報告し、確認をお願いしたい。

【決議内容】

- ・JOC の環境の取り組みとしての「環境理念」及び「行動指針」

【主な意見等】

- ・IOC や他のNOC 等との連携とは具体的にどのようなことを考えているか。
- IOC はJOC に先立って環境行動を行っており、JOC も歩調を合わせて様々な取り組みを協働していきたい。NOC によって活動には濃淡があり、どのNOC とどのような連携ができるのかこれから検討していく。IOC やNOC との連携のイメージとしては、情報交換を密に行い、学ぶべきことを学ぼうということ。我々が学んだ知見をOCA やアジアのNOC に共有していくこともある。あまり大きく考えすぎずにできることから始めフィードバックしていったほしい。
- ・ネットワークという意味ではアスリートたちが独自に国際ネットワークを作り、非スポーツ領域ともつながりながらムーブメントを起こし始めている。アスリートたちを支援しながら国際ネットワークを広げていくということも背伸びをせずにできることの一つではないか。また、IOC から表彰されるようなアスリートを育てることで身近なところから周りを盛り上げていけるのではないか。

(3)令和5年度JOC スポーツ賞について

- ・第1回アントラージュ専門部会にて選考した。年度賞である最優秀賞及び特別栄誉賞につい

て、夏冬のバランスと競技特性を考慮した。優秀賞について、世界選手権のみならず、特に杭州アジア競技大会での活躍も考慮した。新人賞について、夏冬のバランスとユースオリンピック冬季大会の成績を評価した。特別功労賞について、記録的な活躍を考慮した。

- ・特別貢献賞については、国内で開催された試合での振る舞いや代表チームからの情報発信が笑顔やスポーツの価値向上に貢献したことを評価した。
- ・女性スポーツ賞については、長きにわたりアスリートの現場で女性のサポートを行い、今後の予防医学に活用される活動を実施し、女性アスリートを取り巻く環境の整備を実践した活動の評価した。
- ・表彰式は、パリ大会 50 日前となる 6 月 6 日に東京ミッドタウンにおいて、一般の方々にもご覧頂けるよう執り行い、パリ大会に向けた機運醸成にも繋げる。

【決議内容】

- ・令和 5 年度 JOC スポーツ賞受賞者・チーム

【年度賞】

最優秀賞：北口榛花（陸上）

特別栄誉賞：坂本花織（スケート／フィギュアスケート）
江村美咲（フェンシング／サーブル）

優秀賞：第 19 回アジア競技大会水泳競技男子水球日本代表チーム
須崎優衣（レスリング）

阿部一二三・阿部詩（柔道）

第 19 回アジア競技大会ソフトボール競技女子日本代表チーム

新人賞：開心那（スケートボード／パーク）

島田麻央（スケート／フィギュアスケート）

特別功労賞：早田ひな（卓球）

ワールドカップバレー2023 男子日本代表チーム

堀島行真（スキー／フリースタイル）

【特別貢献賞】 バスケットボールワールドカップ 2023 男子日本代表チーム

【女性スポーツ賞】 能瀬さやか

(4) 評議員選定委員会について

- ・令和 6 年度定時評議員会終了時に任期満了となる評議員に代わる新たな評議員の選定を行うため、評議員選定委員会の開催を準備したところ、飯坂元監事より辞任の申し出があった。
- ・評議員選定委員会委員は、評議員選定委員会運営細則により、評議員、監事、事務局各 1 名と外部有識者 2 名の計 5 名で構成し、理事会で選任することから、ジェンダーバランス、本会での活動バランスを考慮し、工藤陽子監事を選任したい。任期は、任期満了前に退任する委員の後任となるため、本日(2024 年 4 月 23 日)より 2027 年 1 月 25 日までとなる。
- ・また、定款第 11 条第 3 項及び加盟団体規程第 3 条第 1 項に基づき、正加盟団体より推薦された評議員候補者は、従来同様、理事会からの推薦者として評議員選定委員会に推薦する。

【決議内容】

- ・評議員選定委員会委員に工藤陽子監事を選任する。
- ・工藤委員の任期は 2024 年 4 月 23 日より 2027 年 1 月 25 日までとする。
- ・正加盟団体より推薦される評議員候補者を、理事会より評議員選定委員会に推薦する。

6 報告事項

(1) 第 33 回オリンピック競技大会(2024/パリ)大会関係について

パリオリンピック開会式 100 日前の 4 月 17 日に日本橋三井ホールにて、本会、日本パラリンピック委員会及び株式会社アシックスの主催のもと「パリ 2024 オリンピック・パラリンピック TEAM JAPAN オフィシャルスポーツウエア発表記者会見」を実施した。オフィシャルスポーツ

ウェアは、寒暖差の環境への対応及び作製段階で温室効果ガスを東京 2020 大会比 34%削減したのものとなっている。

現在、出場競技や選手が徐々に決まりつつある。6月11日に開催される次回理事会で、その時点までに各競技団体から推薦される候補選手と監督・コーチを TEAM JAPAN 選手団として認定し、プレス・リリースする。その後も選手団認定毎に公表する。5月末に TEAM JAPAN チームビルディングを開催する。

【主な意見等】

- ・オフィシャルスポーツウェア発表会において、TEAM JAPAN 式典服が展示されていたが、なぜ選手が着用する形で発表しなかったか？
→TEAM JAPAN ゴールドパートナーのアシックス社と連携した 100 日前イベントの環境としてオフィシャルスポーツウェアの発表を主眼とした。
- ・同日の4月17日には、井上、谷本両 TEAM JAPAN 副団長が年始に被災した能登地域に、炊き出し、瓦礫撤去ボランティア、柔道教室等を通じ現地の方と交流し、情報交換をした。その際のニーズや情報をもとに JOC として今後どのような支援を提供できるかを検討していきたい。実際に現地に行くとメディアで見聞きするのとは違う。現地の方々からは「我々は忘れられているのではないか」という声もあったが、我々が行くことで改めて報道されることもある。スポーツをとおして我々ができることはたくさんあると感じた。

(2) 令和6年度補助金・助成金の交付決定について

例年、国や JSC、JKA、ミズノスポーツ振興財団、日本馬主協会連合会等、多くの団体から補助金・助成金の交付を受けている。その中で、公益財団法人 JKA より、オリンピック教室、オリンピックコンサート、広報誌制作のオリンピック・ムーブメント推進事業に対し、39,601,000 円の補助金の交付決定をいただいた。この補助金を活用し事業を実施する。

(3) 選手強化本部関係について

1) 令和6年度オリンピック強化指定選手・オリンピックネクスト強化指定選手・強化スタッフの認定について (4月1日付)

2) 令和6年度コーチ等設置事業・コーチ等一覧について

夏季競技は、オリンピック強化指定選手 1,318 名、オリンピックネクスト強化指定選手 293 名、強化スタッフ 2,368 名。冬季競技は、オリンピック強化指定選手 310 名、オリンピックネクスト強化指定選手 59 名、強化スタッフ 302 名。非オリンピック競技は、強化スタッフのみで 433 名。合計オリンピック強化指定選手は 1,628 名、オリンピックネクスト強化指定選手は 352 名、強化スタッフは 3,103 名。令和6年4月1日付で委嘱したコーチ等は、各競技の責任者となるハイパフォーマンスディレクター等が 63 名、ナショナルヘッドコーチ 54 名、ナショナルチームコーチ 169 名、ナショナルチームスタッフ 124 名の合計 410 名である。

3) 令和6年度 JOC エリートアカデミー

4月7日に味の素 NTC にて入校式を実施。令和6年度は総勢6競技(レスリング、卓球、フェンシング、ライフル射撃、ボート、アーチェリー)22名での活動となる。

(4) 第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)大会の進捗状況について

大会の進捗状況について報告。開催基本計画 Ver.2 は、2019年11月時の計画内容を更新。開催基本計画のフルバージョンについては、AINAGOC のホームページに掲載。

(6) その他

- ・次回理事会は6月11日(火)に開催。

以上